

2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
ブルネイ工科大学におけるバイオポリマー研究留学	Aコース

学生情報	
氏名	板倉利樹
所属学部・研究科	工学部応用化学コース
学年(出発時)	4年

渡航先情報	
渡航先	ブルネイ王国・バンダルスリブガワン
渡航先滞在期間	2024年9月20日 ～ 2024年10月2日
訪問先機関等	ブルネイ工科大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容
私はブルネイ工科大学の研究室に2週間滞在しました。この大学ではバイオポリマーに関する研究が行われており、特にエビの殻やサゴヤシを利用したバイオマス素材の開発に注力しています。私自身は石油由来の高分子に関する研究テーマを担当していますが、最近では地球環境保護の観点から再生可能資源を活用したバイオプロセスが注目されています。そのため、ブルネイ工科大学の研究室でバイオポリマーに関する知識を深めることを目的としました。ブルネイ工科大学は教員の多くがヨーロッパ、中東、中国、東南アジア出身であり、国際的な雰囲気が漂う大学です。キャンパス内ではすべて英語が使用されるため、英語のトレーニングを兼ねた研究留学となりました。平日は研究室で実験を行いバイオポリマーの知識を習得し、休日には現地の学生とスポーツや市内観光を通じて交流し、ブルネイ王国の生活や文化について理解を深めることができました。
渡航により達成できたこと
研究を通じてバイオポリマーの特性について学ぶことができました。現在、私は合成高分子の研究をしています。そのため、合成高分子とバイオポリマーを比較することで、高分子に対する理解をより深めることができました。また、キャンパス内のすべての活動が英語で行われているため、教授や学生とのコミュニケーションを通じて英語力が向上しました。周囲に日本人がいない環境では、疑問点について自ら積極的に英語で質問する必要がありました。初めは英語がうまく伝わらず苦労しましたが、徐々に発音にも慣れてきました。さらに、現地の方々と観光名所や料理を楽しむ中で、新たな経験や感動を得ることができました。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

道路に歩道がなく、公共交通機関が整備されていないこと、また宗教に基づく食文化や生活様式の違いを実感しました。現地では、ほとんどの人々が自家用車を利用して移動しており、留学生としては非常に不便に感じました。しかし、地元の方々が毎日車で送迎してくださり、その不便さの中でもブルネイの人々の温かさを体感することができました。また、食文化や生活様式の違いから、日常生活のあらゆる面で新たな刺激を受けました。アルコールや豚肉の禁止、お祈りの時間など、日本では経験できない文化を現地で直接体験できたことは、非常に貴重な思い出となりました。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

私は高分子合成化学の研究室で日々研究をしています。今年度の研究テーマはブルネイ工科大学で学んだ内容とは異なりますが、今回習得した実験手法や手順を積極的に活用していきます。また、来年度からは研究テーマが変更されるため、バイオポリマーの合成についても考慮に入れたと考えています。研究以外の面では、英語能力と行動力の重要性を強く感じました。そのため、同じ研究室の留学生と積極的にコミュニケーションを図り、今回の事業以外にも海外に関連するプロジェクトに参加したいです。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

海外留学に関心がある学生だけでなく、コミュニケーション能力や行動力に自信がないと感じている方々も参加してみてください。自ら行動しなければならぬ状況に身を置くことで、成長のための貴重な機会を得ることができます。また、英語に対する不安があっても、海外渡航を決意することで英語習得への意欲が高まり、言葉が通じなくても乗り越える力を養うことができるでしょう。私自身も、一人で海外に行くことに対して不安を抱えていましたが、留学を終えた後には大きな自信を得ることができました。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	98,970円
海外旅行保険	7,835円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	0円
宿泊費	29,700円
光熱費	0円
食費	8,000円
その他	35,000円
合計	179,505円